

第11回 弟子屈町子ども・子育て会議 顛末

開催日時 令和元年6月14日(金) 15:30~16:30

開催場所 公民館 講堂

出席者 委員8名 竹森 英彦・榎本 竜太郎・鈴木 幸栄・宮崎 久美子・館 昭子・
西崎 勉・辻谷 由紀子・辻川 智宏
事務局8名(健康こども課~課長・参事・保育園長・こども支援係・健康推進係)
(社会教育課~課長補佐)

欠席者 委員3名 齋藤 超・坪井 智裕・土屋 直人

1. 会長挨拶

子どもが巻き込まれる自動車事故が多く、散歩中の子どもを見かけると気になる。
自動車事故はどこでもあり得る為気を付けてほしい。

子ども・子育て計画も2期の策定に着手していくが、町内で行っている事、どのような事をしていけば良いのか、よりよい子の環境を作る為にも大人が努力していきたい。

2. 議案審議

- ① 平成30年度子ども子育て支援事業実績及び平成31年度計画について
平成31年度新規、休止等の有る事業について説明
P4 産前・産後サポート事業、新生児聴覚検査費用助成事業(新規)
健康推進係 渡邊保健師より説明
P31 アドベンチャーツーリング(休止)、青少年健全育成事業(新規)
社会教育課 川井田補佐より説明
P84 放課後こども教室(検討)
P47 病児保育事業(検討)
P53 保育料激変緩和対策事業(新規)
こども支援係長より説明

(質疑)

西崎委員

- ・計画P44の休日保育が現時点では未定となっているが今後どのように検討予定なのか。

榎本委員

- ・保護者会で出たがガイド業をしている者は土日も仕事がある、観光業に従事していると休日出勤時の子どもの預け先に苦勞するので検討して欲しい。
また、今年度から土曜保育対象者は土曜勤務者限定となっているが、土曜保育の体制が変わったか。

鈴木委員

- ・認定こども園となって月曜から金曜まで1号認定を含め延長保育を行っている。土曜は保育のみ

行っているが土曜については超勤対応となっているため賃金の問題があり日曜、祝日、年末年始は人件費が賄えなくなるため開園しない。

参事

- ・保育の理想は24時間365日だが現実には難しい。土曜の保育対象時は平日より減るが子どもが1人でもいると保育士は最低2人は必要となる。休日保育等の希望が多くなれば今後検討していきたい。

榎本委員

- ・保育士不足はわかっているが、観光の町とうたっている以上は検討を続けて欲しい。

鈴木委員

- ・預かる子の年齢により必要な保育士数が変わる、低年齢の子の保育数が増えると保育士の出勤数が増えるため難しい。

竹森委員長

- ・観光の町ということもあり、産業を通じ町を盛り立てる為にも検討して欲しい。

辻谷委員

- ・札幌での2歳児虐待死事件などあったが、子どもの健診未受診、体重が基準より大幅に少ないなど虐待の疑われる人にはどのような対応を行っているか。

渡邊保健師

- ・乳幼児健診で保護者と児の様子は確認している。健診は法定健診の為2回欠席した場合保健師が電話等で確認を行い訪問等で対応している。親の気になる様子も確認しているが、子育て支援センター保育士等関係機関と連携をとり対応を行っている。

坪井係長

- ・出生児のいる家庭には7か月以内に保育士が保健師に同伴訪問の形で訪問し母子の状態を確認している。特に気になる家庭は子育て支援センターの利用につなげるよう対策している。
また、児童相談所や警察など虐待対応の関係機関と連携をとり、7月に開催を予定しているが、要保護児童対策地域協議会を開催し虐待に関する学習会を行っている。
また、学校の教頭から連絡が有ることが多いが、ネグレクト等の情報をもらい個別ケース検討会などを開催するなど連携をとっている。
町民にも疑わしきは役場、警察などに通報するということが浸透してきている。

竹森委員長

- ・実績の件数の（ ）内は何か、P3妊婦安心サポート事業の出動件数3件とあるがどのような事例か教えて欲しい。また、P4妊婦ケア体験チケット交付事業は本人が助産師のもとに行くのか、助産師が来てくれるのか知りたい。

渡邊保健師

- ・妊婦安心サポートの3件は主に破水が原因で、仕事等の関係で近くに家族がいない為利用し病院到着後出産に至っている。
妊婦ケア体験チケットは母子手帳交付時に説明し、申請者は多数いるが早めの里帰り出産等で利用にはつながりにくい現状である。

竹森委員長

- ・ P 7 予防接種は種類が沢山あるが任意接種と定期接種にどのような物があるのか知りたい。

渡邊保健師

- ・ 記載されている予防接種が定期接種だが、任意接種としてロタウイルスやおたふくなども有るが希望者の全額自己負担で町内の医療機関でも接種が可能。

竹森委員長

- ・ P 4 今年度の産前産後サポート対象者はどのくらいいるのか、増えているのか。

坪井係長

- ・ 母子手帳の交付数から40人弱はいる予定。出生数が25人の年もあり40人でも増えた感じはするが出生数が減っている事には変わらない。

川湯地区は川湯の森病院従業員、学校教諭、駅前など子の数が多い。

辻谷委員

- ・ 子が幼稚園の時おたふくが流行したことがある。辻谷家は任意接種で3人の子に摂取したが、費用負担が2万円近くと大きかったが流行時おたふくに罹り髄膜炎になった子もいた。
こども園となり町内の子が一か所に集まることになったため、感染性の疾患が流行した場合蔓延する可能性もあると思う、定期接種以外の予防接種も町で助成してもらえると保護者負担も減らせるのではないかと。

渡邊保健師

- ・ 重症化の問題もあり、国の方針もあるので町としても検討していきたい。

竹森委員長

- ・ 子が小さな頃は任意接種だった予防接種が定期接種となり、進学等で接種が必要になることも有る。
子が大きくなった保護者にも情報を周知してもらえるとありがたい。

宮崎委員

- ・ 実績 P 1 6 ・ 1 7 では評価 4 良好に実施して計画を上回る結果となった、とあるが P 2 0 ～ 2 4 は評価 4 計画通り実施して計画通りの結果となったとあるが、どちらが正しいか。

坪井係長

- ・ 評価 4 に対し「好に実施して計画を上回る結果となったは」は正しい、P 2 0 ～ 2 4 の評価 4 に対し「計画通り実施して計画通りの結果となった」は間違い。

課長

- ・ 評価は全て数値で評価は出来ない、言葉による評価も必要。備考欄等を設け記入することも必要。

竹森委員長

- ・ 事業実施担当者などが困っていることなどを今後の会議で話し合っていければよいと思う。

② 放課後児童クラブの学校移転について

別紙のとおり説明

(質疑)

宮崎委員

- ・ 放課後児童クラブの登録児童は学校の全校生徒に対しどの位程度いるか。

参事

- ・弟子屈小は半数ほど、川湯は9割ほど登録している。
弟子屈は少年団等の活動や高学年になると利用しなくなるが川湯は高学年でも利用が多い。
また、おやつ代は毎月かかるが利用自体は無料の為登録のみしている人も多い。
平日の利用に比べ土曜の利用は少ない。

宮崎委員

- ・もっと多くの児童が登録していると思っていた。

③ 第二期 弟子屈町子ども・子育て支援事業計画策定について

別紙のとおり説明

④ その他

館委員は社協理事で委員となって頂いていたが、理事の任期終了となったため今回の会議を最後に子ども・子育て会議委員を離任される。

今後は社協に新理事選任依頼をする予定。